

# 時代の変化に対応した 専門高校の在り方について

これからの専門学科・専門高校の在り方についてー

答 申

平成18年2月

宮城県産業教育審議会

# 目 次

はじめに	1
社会状況の変化と専門学科・専門高校の課題	1
1 産業構造の変化・産業技術の高度化	1
2 雇用情勢の変化	2
3 就業意識の変化	2
4 進学希望者の増加	2
5 中学校卒業生数の減少	2
特色ある教育の展開	3
1 教育課程の工夫	3
(1) 将来のスペシャリストとしての基礎・基本の習得	
(2) 広い視野から学ぶ専門教育の推進	
(3) 体験的な活動の推進	
(4) 多様な進路希望への対応	
2 職業観・勤労観の育成	4
(1) 系統的なキャリア教育の展開	
(2) 職業人として必要な能力の醸成	
(3) インターンシップ等の推進	
3 学習環境の整備	5
(1) 地域・産業界との連携	
(2) 教員研修の充実	
(3) 専門学科・専門高校の整備	
(4) 施設・設備の充実	
4 専門教育への理解	6
(1) 中学校への情報提供	
(2) 地域社会への情報提供	
まとめ	7

## はじめに

本県の専門高校は、それぞれの職業に関する専門教育を行う場として、創意工夫した教育を展開し、中堅技術者や専門的事務従事者など、地域の産業経済の発展に寄与する多くの人材を育成してきた。

しかしながら、経済の国際化、情報化による産業構造の変化や雇用情勢の変化、そして若年者の就業意識の変化、進学者の増加、少子化による生徒数の減少など、専門高校を取り巻く環境も大きく変化しており、教育内容や学習環境などの見直しが求められている。

このような中、本審議会は、宮城県教育委員会から平成16年10月「時代の変化に対応した専門高校の在り方について」の諮問を受け、社会の変化や地域・生徒のニーズに対応した教育内容、職業観・勤労観の育成、学習環境の整備などについて審議を重ね、その結果を以下のようにまとめた。

## 社会状況の変化と専門学科・専門高校の課題

### 1 産業構造の変化・産業技術の高度化

就業構造基本調査によると、本県の有業者が占める産業別割合は、平成9年と平成14年を比較すると、第一次産業では、7.3%から5.5%に、第二次産業では、29.1%から25.0%に減少し、一方、第三次産業は63.2%から68.0%に増加している。また、産業技術が急速に進展する中で、より高度な専門的知識・技術が必要とされている。

これらの変化に対応して、教育内容の工夫、学科の改編、総合学科や専攻科の設置などが行われてきたが、今後は、さらに地域や社会のニーズに応えた教育内容の検討、地域との連携や学習環境の整備が求められる。

## 2 雇用情勢の変化

県内高校卒業者への求人数は（宮城労働局調べ）、平成6年3月と平成17年3月を比較すると、15,994人から5,789人と減少し、求人倍率も2.08から1.36に低下している。新規高卒者の就職内定率を見ても、全国順位は低位にあり、高校生の就職は厳しい状況にある。

専門学科においては、普通科の卒業生に比べ高い就職率を示しているものの、事務職の求人が減少するなど、学科によっては、希望する職種に就くのが厳しい状況にある。今後は、進路指導の充実とともに広く社会に対して専門教育への理解を図る必要がある。

## 3 就業意識の変化

若年者の価値観・職業観の変化により、卒業後、フリーターや無業の状況にある若年者が増加している。

また、宮城労働局調べ（平成13年3月卒）によると、3年以内の離職者の割合は、51.7%と全国平均48.9%を上回っていることから、発達段階に応じて就業意識を醸成する取り組みが必要である。

## 4 進学希望者の増加

学校基本調査によると、本県専門学科卒業生の大学・専門学校等への進学率は、平成6年は26.2%であったが、平成16年には40.5%と大幅に上昇しており、進学希望者にも対応できる教育課程の工夫が必要である。

## 5 中学校卒業者数の減少

本県の中学校卒業者数は、平成元年の35,137人をピークに減少傾向にあり、平成12年には29,601人、平成17年には24,418人まで落ち込み、平成22年には23,000人程度になるものと見込まれる。

この状況で推移すると、学校規模は縮小し、活力ある教育

活動を維持することが困難になることが予想される。今後は、学科・学校の再編も視野に入れた魅力ある専門教育の展開が望まれる。

## 特色ある教育の展開

### 1 教育課程の工夫

専門学科・専門高校は、栽培や飼育を通し、自然の恵みや命を大切に作る心、ものづくりや販売活動等を通し、創造する喜びや物を大切に作る心、他者との様々な触れ合いを通し、共生する心など、豊かな人間性の育成のために、実験や実習などの実感する教育を大切にしてきた。

さらに、前述した社会状況の変化を踏まえ、生徒や学校、地域の実態に応じ、それぞれの学校にふさわしい特色ある教育課程を工夫していくことが大切である。

#### (1) 将来のスペシャリストとしての基礎・基本の習得

社会の変化や産業界から求められる知識や技術の水準を視野に入れながら、資格取得も含め、将来のスペシャリストとして必要とされる専門的知識・技術の基礎・基本の習得を教育の重点に置くことが必要である。

#### (2) 広い視野から学ぶ専門教育の推進

急速に変化する社会の中で、環境に配慮しつつ、消費者ニーズに対応した生産から加工、流通、販売までを視野に入れた専門分野を広く学ぶ教育や福祉的視点を取り入れた教育なども必要である。

また、長期的視点に立って職業教育を考え、学科・学校の枠を越えた学習が可能な教育課程や教育システムについても検討することが望まれる。

( 3 ) 体験的な活動の推進

専門的な知識・技術を身につけ、それを定着させるために、教育活動全体を通して、より実践的な実験・実習など、を積極的に取り入れることが重要である。

( 4 ) 多様な進路希望への対応

生徒の進路実現のためには、基礎学力の確実な定着とともに、入学時の早い段階から進路意識の高揚を図るためのガイダンス機能の充実や職場・学校見学・インターンシップの実施など体験の場の確保も必要である。大学・専門学校等への進学希望者の増加をはじめとする生徒の進路ニーズの多様化に対応するためには、科目選択幅の拡大も検討する必要がある。

2 職業観・勤労観の育成

これまで専門高校においては、職業に関する知識・技術の習得を通して、有為な人材を育成してきた。しかし、多様な進路希望に対応するためには、専門的な知識・技術の習得や資格取得だけでなく、生徒のキャリア発達をいかに系統的に支援するかという視点に立った指導が必要である。社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質や必要な能力を身に付け、自らの生き方を探求し、主体的に進路を選択・決定できるようにする態度と能力を育むための取り組みが求められる。

( 1 ) 系統的なキャリア教育の展開

働くことの意義について考え、職業への理解を深める教育は、すべての児童生徒に必要であり、小学校からの発達段階に応じた指導や家庭の役割も重要である。

また、主体的に将来設計ができるような力をつける教育の推進が必要である。

さらに、起業家精神を涵養する教育の推進が望まれる。

( 2 ) 職業人として必要な能力の醸成

専門学科・専門高校のみならず，普通科の生徒に対してもボランティアなどの体験活動を確保し，豊かな人間性や創造性を育む必要がある。

さらに，コミュニケーション能力，主体的に考え表現する力，協働して物事に取り組む力，基本的なマナーや困難を乗り越える力を身に付けるなど，社会生活を営む上で求められる総合的な力としての人間教育が必要である。

( 3 ) インターンシップ等の推進

専門学科・専門高校では，専門的知識や技術を基礎としたキャリア発達を促す体験活動の機会を積極的に確保する必要があり，インターンシップをより推進することが望まれる。さらに長期の企業実習など実務と教育が連携した実践的な教育内容の深化を図るシステムの導入を学校や地域の実態に応じて検討することが求められる。

3 学習環境の整備

専門学科・専門高校においては，社会状況の変化や生徒の学習ニーズ等に柔軟な対応ができる学習環境を整備していくことが必要となってくる。

( 1 ) 地域・産業界との連携

地域社会に貢献できる人材の育成のためには，専門学科・専門高校が，民間の豊かな経験・見識および専門的技術を有する人材を活用することや，学校のもつ教育力や生徒の若い感性を地域に還元するなど，地域・産業界との間に協力関係をつくることが望まれる。

( 2 ) 教員研修の充実

生徒の学習ニーズに対応するには，個々の教職員の資質向上が必要であり，平成16年度から，教職員による自己目標の設定とその検証を中心とし，教職員が自らの職務全体について自己評価を行う，教員評価システムが試行されている。

今後は、さらに各種の研修会や講習会等に積極的に参加できる環境づくり、産業界、大学や教育研修センター等における研修機会の確保なども望まれる。

### (3) 専門学科・専門高校の整備

特色ある教育活動を展開するためには、一定の学校規模の維持が必要である。今後は、地域ごとの生徒の減少状況、地理的バランス、普通高校や総合学科の設置状況等を配慮し、専門学科・専門高校の配置について検討する必要がある。

全県的視野から、専門教育における各学校の果たすべき役割を考慮しながら、教育内容が重複した地理的に近い学科の整理について、検討する必要がある。

また、生徒数の減少が著しい地域については、社会の変化に対応しつつ、複数学科を有する総合的な専門高校の設置等も検討する必要がある。

### (4) 施設・設備の充実

技術革新に対応できる教育内容を展開するためには、中・長期的な視点のもとに施設・設備の充実を図る必要がある。

## 4 専門教育への理解

中学生が将来の希望をもって進路選択ができるように、また、地域や産業界と連携した教育を推進するためにも、専門学科・専門高校の魅力について、正しい理解を図る必要がある。

Web ページ、学校だより、学習成果発表会、学校開放講座、技術講習会、中学校訪問や体験入学など様々な機会を活用し、社会全体にアピールする必要がある。

### (1) 中学校への情報提供

中学生はもとより、進路決定に大きな影響がある中学生の保護者や中学校の教員に対して理解を図る必要がある。



## (2) 地域社会への情報提供

地域・産業界と連携した専門教育を実践するためには、学校の教育内容等について十分な理解のもと、協力体制を構築していくことが望ましい。

### まとめ

これからの専門教育は、社会や生徒のニーズに的確に対応するため、専門学科・専門高校が期待される役割、機能を十分に踏まえた教育を展開するとともに、個々の学校が特色を一層明確にすることが重要である。

- 1 実験・実習等の体験的な活動を重視しつつ、地域社会との連携を図りながら生徒たちに望ましい職業観・勤労観を育成する教育を一層推進することが望まれる。
- 2 産業の複合化、産業技術の高度化への対応や生産から消費までの広い分野での学習を可能にするために、長期的視点に立ち、学科・学校の枠を越えた授業交流等を検討することが望まれる。
- 3 生徒が、社会の変化に主体的に対応し、社会人・職業人として自立していくために、関係機関との連携を図りながら、系統的なキャリア教育を推進することが望まれる。
- 4 教員の資質向上を目指し、研修の機会を確保することが望まれる。
- 5 活力ある専門教育を展開するために、専門学科・専門高校の再編を検討することが望まれる。
- 6 専門教育への理解を図るために、広く社会に情報を提供することが望まれる。